

指導研究部

石丸

I 目標

教育力向上福岡県民運動の趣旨のもと、志を持って意欲的に学び、自立心と思いやりの心を持つたくましい子どもを育成する。

II 組織

- (1) 学力向上（指導工夫改善）部
- (2) 主題研修部
- (3) 現職教育研修部
- (4) 若年教員研修部
- (5) 初任者研修部 ※本年度は初任者配置なし

(1) 学力向上（指導工夫改善）部

渡邊・倉光

1 目標

児童の学力に対する実態を適切に把握し、協働体制のもとに指導技術の向上を図り、児童の学ぶ意欲と学力の向上を図る。

2 本年度の努力点

基礎的基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、それらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。そのために、学力向上プラン・重点取組計画に沿った取組を着実に進めていく。

- 指導方法工夫改善担当を中心に、山鹿タイム、家庭学習等の充実を図る。
- 算数科の授業については、指導方法工夫改善担当を中心に、習熟度別分割授業を中心に実施する。
- 理科専科を配置し、仮説検証のために自ら考えた観察・実験を行う問題発見・解決型の授業を実施する。

3 具体的な取組

(1) 学力向上のための授業づくり

- ① 主題研修部との連携を図り、「一人学び」「協働学び」を充実させた授業づくりを確実に進める。
- ② 家庭学習として予習・復習を行わせ、授業の効率化を図るとともに、発展的な問題を解く時間を確保していく。

(2) 学力の基礎を培う活動の明確化・共通理解

- ① 山鹿タイム（月～水 13:55～14:05 木 13:15～13:25） ※職員全員で関わっていく。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
算数①・ドリル	算数練習・ドリル	漢字テスト・ドリル	算数②・ドリル

※ドリルは、言葉のドリルや算数ドリル

- ・ 月曜日に算数①を実施し、木曜日に同一問題（算数②）を実施して伸びを確認する。問題作成については各担任と協議の上指導方法工夫改善担当が行う。
- ・ 学期末に「がんばったで賞」を配布し、児童の伸びを評価していく。（級取り方式）
- ・ 水曜日の山鹿タイムでは、1週間練習した漢字のミニテストを実施し、確実に漢字を身につけさせる。問題作成については指導方法工夫改善担当が行う。
- ・ 漢字ミニテストの実施に伴い、学期末に実施する「漢字50問」については、練習なしで実施し、その結果を提出する。
- ・ 山鹿タイムテスト終了後、全校児童統一のドリルを実施する。

② 算数科における重点学年の補充学習及び重点単元における学年分割授業の取組

- 重点学年においては、月曜日・火曜日・金曜日のいずれかの6校時を補充の時間として位置付ける。
- 全国学力調査や県学力調査を分析し、重点単元を設定するとともに、指導方法工夫改善担当を中心に、学年習熟度別分割授業を実施する。

③ 家庭学習

- 「放課後学習のすすめ（低・中・高学年用）」に沿って行わせ、家庭学習の習慣を定着させる。
- 月に1回、1週間の「家庭学習強化週間」を設ける。

④ 理科専科の活用

- 3年生以上の理科に専科教員を置き、仮説検証のために児童自ら考えた観察・実験を行う問題発見・解決型の授業を行う。

(3) 学力向上の検証

① 学期末に、テストなどの結果をもとに、学年・学級で取組の成果と課題を把握し、改善策を練る。

② 全国学力学習状況調査（6年対象）、ふくおか学力向上WEBシステム（5年対象）、福岡県チャレンジテスト（4年対象）、標準学力検査（全学年対象・12月実施）の結果を基に学年・学級で取組の成果と課題を把握し、改善策を練る。

⇒ 学力向上ロードマップを着実に推進する。

令和4年度 学力向上プランを基にした 検証改善ロードマップ												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
サイクル	P	D	C	A	P	D	C	A	P	D	C	A
学力向上委員会	6年 全国学力学習状況調査 (4月19日)	6年 全国学力学習状況調査 結果分析	5年 県学力調査 (6月20日)		6年 全国学力学習状況調査 結果分析	5年 県学力調査 結果分析			標準学力調査 チャレンジテスト	標準学力調査 結果分析	標準学力調査 結果分析	標準学力調査 結果分析
教員研修会	本年度の学力向上の取組の振り返り	本年度の学力向上の取組の振り返り	本年度の学力向上の取組の振り返り		本年度の学力向上の取組の振り返り	本年度の学力向上の取組の振り返り			本年度の学力向上の取組の振り返り	本年度の学力向上の取組の振り返り	本年度の学力向上の取組の振り返り	本年度の学力向上の取組の振り返り
活動	学習過程の確立 めあてづくり→実践→自分の考えの構築 (一人学習)→交流 (協働学習)→まとめ	算数科において家でのふりかえりや学習を活かした、めあての主体的な設定			自分の考えについて理由や根拠を入れて書いたり説明したりするための手立ての工夫			自分の考えを友達や先生と比較することを通して、付加修正できるための交流方法の検討			自分の考えを友達や先生と比較することを通して、付加修正できるための交流方法の確立	
補修	算数科 習熟度別少人数授業 (3年以上・学年ごとに常時間を確保) ※重点単元を中心に、学年3・4分割/学級2分割 補充学習 「山鹿タイム」 計算テスト、漢字テストの正答率チェック (毎週) 【ドリル】月・水・木→①言葉のきまり (前学年 下) ②算数ドリル・漢字スキル等				算数科 習熟度別少人数授業 ※重点単元を中心に、学年3・4分割/学級2分割 補充学習 「山鹿タイム」 計算テスト、漢字テスト正答率チェック 【ドリル】月・水・木→①言葉のきまり (当該学年 上) ②算数ドリル 漢字スキル等			算数科 習熟度別少人数授業 ※重点単元を中心に、学年3・4分割/学級2分割 補充学習 「山鹿タイム」 計算テスト、漢字テスト正答率チェック 【ドリル】月・水・木→①言葉のきまり (当該学年 上) ②算数ドリル 漢字スキル等			算数科 習熟度別少人数授業 (2年生の学年分割授業追加) 補充学習 「山鹿タイム」 計算テスト、漢字テスト正答率チェック 【ドリル】月・水・木→①言葉のきまり (当該学年 上) ②算数ドリル	
取組	6年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) 全国調査に向けた基礎と活用問題の練習	5年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) 県学力調査に向けた基礎と活用問題の練習	4~6年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) 2年生以上の「未来への一歩」の問題を活用した基礎基本の定着		4~6年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) 「未来への一歩」の活用 苦しい単元の復習 (基礎→活用)		4~6年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) 「未来への一歩」の活用 苦しい単元の復習 (基礎→活用) ※1~3年は国語・算数の時間で行う		4~6年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) チャレンジテスト (4年)・標準学力調査に向けた活用問題練習 ※1~3年は国語・算数の時間で行う		4~6年補充学習 「バリ鍛タイム」 (週1回) 標準学力調査をもとに、年間の苦しい単元や領域について分析、基礎・活用問題について学習形態や内容を計画し、練習 ※1~3年は国語・算数の時間で行う	
家庭学習	予習を入れた家庭学習の習慣づけ ゲーム時間1時間以内 ゲーム時間を越える学習時間の確保	家庭学習強化週間	家庭学習強化週間		家庭学習強化週間		家庭学習強化週間	家庭学習強化週間		家庭学習強化週間	家庭学習強化週間	標準学力調査結果を家庭学習に活用